

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Estimates of the mean alcohol concentration of the spirits, wine, and beer sold in the United States and per capita consumption: 1950 to 2002.</p> <p>1950年から2002年のアメリカで売られたスピリッツ、ワイン、ビールの平均アルコール体積濃度と一人当たりアルコール消費量</p>	
執筆者	
Kerr WC, Greenfield TK, Tujague J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2006 Sep;30(9):1583-91.	
キーワード	
一人当たりの消費、スピリッツ、アルコール含有量、傾向	
<p>要 旨</p> <p>背景： 一人当たりのアルコール消費量を評価するためにはビール、ワイン、スピリッツの平均アルコール含量の評価が必要となる。</p> <p>方法： 1950年から2002年に米国で販売されたスピリッツの濃度の年別の評価及び州別の平均アルコール含量を主要ブランドと売り上げから評価した。ビールとワインの平均濃度については先行研究におけるこの時期の濃度の値を外挿した。この数値を適用することによって15歳以上のアメリカ人が一人当たり消費した、ビール、ワイン、スピリッツとアルコール総量を評価した。</p> <p>結果： これまでの評価法と比べスピリッツのアルコール含量は低めであった。また、年の経過及び州によって変動が見られた。結果としては、これまでの評価に比べビールでのアルコール摂取は多くワインやスピリッツの消費は少なかった。</p> <p>結論： 今回の平均アルコール含量を用いた評価はこれまでの評価と異なった結果とであったがより正確であろうと考えられる。この新評価法を用いることは時系列研究、断面研究におけるアルコールと関連転帰の評価をより改善し、正確性を増すかもしれない。</p>	